

d-6) ヤマノカミ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 4 汽水・淡水魚類(環境省 2003 年 5 月)」⁴⁾に絶滅危惧 II 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に絶滅危惧 II 類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、有明海に注ぐ佐賀県と福岡県の河川と長崎県諫早湾に注ぐ河川だけに生息する²⁷⁾。ただし諫早湾奥部では、堤防による締め切り以降、分布が絶えている²⁷⁾。佐賀県内では、田手川、城原川、嘉瀬川、本庄江、多布施川、六角川、塩田川、八幡川、石木津川、浜川、糸岐川⁶⁾における記録がある。

年間を通じて干潮域上流部の、砂礫質の浅い狭小な水域に単独で見られる²⁷⁾。仔稚魚はカイアシ類や水生昆虫を主に食べ、成長すると夜活動し、主に魚類を捕食する²⁷⁾。生後最初の晩秋に成熟して川を下り、早春に河口またはその沖の浅海に達して、二枚貝の空殻内面に産卵する²⁷⁾。卵は球形で、直径 2.0mm ~ 2.2mm、沈性で卵膜に粘着性がある²⁷⁾。卵黄は橙赤色を呈する²⁷⁾。

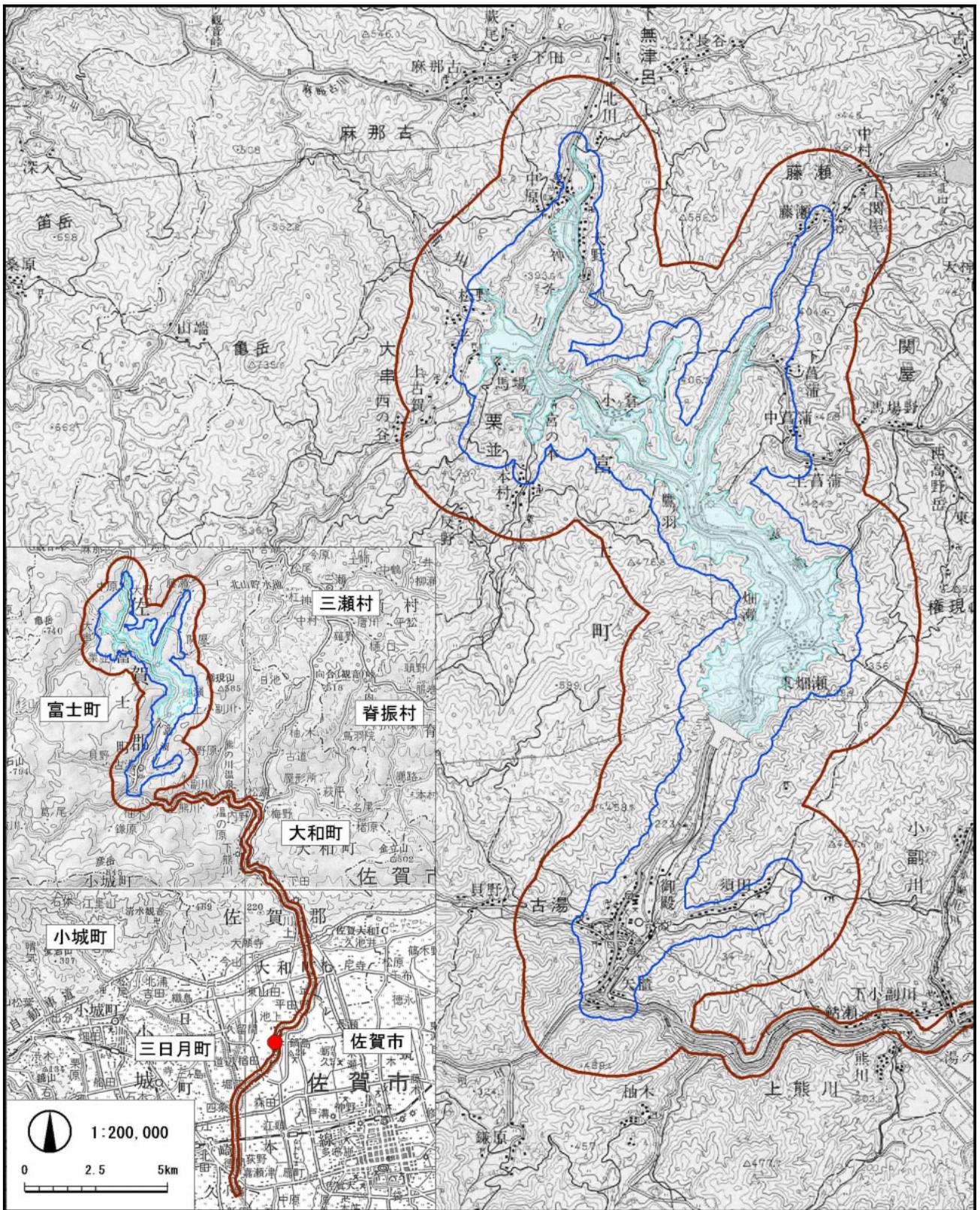
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-6(6)に示す。

本種は、平成 10 年度の調査において、嘉瀬川の池森橋上流 1 地点で生息が確認された。

確認地点の環境は、排水樋門付近の平瀬であり、1 個体が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、有明海で産卵し、嘉瀬川の下流部に遡上して生息すると考えられる。なお、専門家への聴取により、本種は嘉瀬川大堰により遡上を阻害されており、堰上流部では少なくなっているとの情報を得た。



- 凡 例
-  : ダム堤体
 -  : 副ダム
 -  : 貯水予定区域
 -  : 対象事業実施区域
 -  : 調査地域
 -  : 確認地点

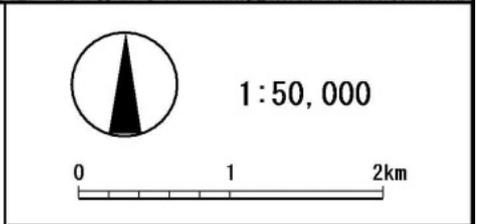


図4.1.5-6(6)
ヤマノカミ確認地点

d-7) カジカ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」⁶⁾に絶滅危惧Ⅰ類種として掲載されている。

また、本種は、専門家により「県内で希少」と指摘されている。

ii) 生態

本種の大卵型は、本州のほぼ全域と四国、九州北西部²⁷⁾に分布する。佐賀県内では、中川、浜川、(筑後川、嘉瀬川 佐賀県 1979)⁶⁾における記録がある。

小卵型と中卵型は一般に川の中、下流域を中心に生息するのに対して、大卵型はそれより上流側に生息する²⁷⁾。いずれの型も瀬の石礫底に多い²⁷⁾。肉食性で、付着性の水生昆虫を主に捕っているが、流下昆虫、底生昆虫の他、小魚も食べる²⁷⁾。産卵期は3月下旬～6月上旬⁶⁾である。瀬の石礫底にある大形の石の下の空所になわばりをはり、次々と雌を誘ってつがい、石の下面に卵を固着させる²⁷⁾。

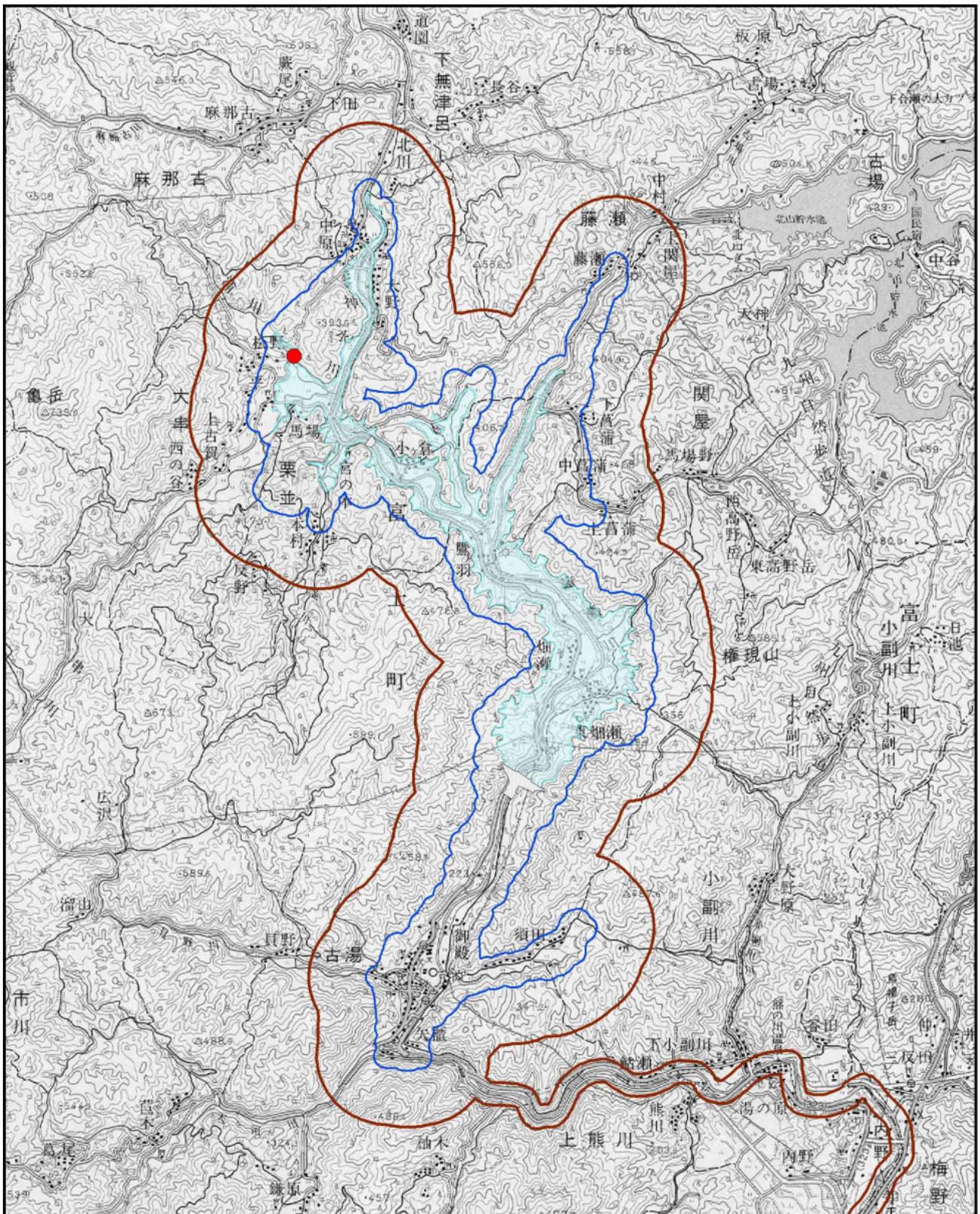
iii) 調査結果

調査による確認地点を図4.1.5-6(7)に示す。

本種は、平成8年度の調査において、浦川の浦川橋付近1地点で生息が確認された。

確認地点の環境は、河床が岩や礫からなる平瀬であり、1個体が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、嘉瀬川の支川上流部にまれに生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000

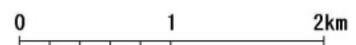


図4.1.5-6(7)
カジカ確認地点

d-8) オヤニラミ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 4 汽水・淡水魚類(環境省 2003 年 5 月)」⁴⁾に準絶滅危惧、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に絶滅危惧 II 類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、淀川、由良川以西の本州、四国北部、九州北部に分布する²⁷⁾。佐賀県内では、田手川、城原川、嘉瀬川、多布施川、巖木川⁶⁾における記録がある。

大河川の中流や下流の本流、支流に生息するが、川底がほとんど砂というような河相の貧弱な支流にはいない²⁷⁾。大河川の中流では平瀬でも淵でもなく、水深 50cm 前後の岸近くに多い²⁷⁾。流れの緩やかな場所を好む²⁷⁾。肉食性で、小型の水生昆虫等、丸のみにできるものを食べる²⁷⁾。産卵期は 4 月下旬に始まり 9 月まで続くが、ほとんどの産卵は 5 月に集中する²⁷⁾。産卵基質としては、ヨシ等の植物のしっかりとした茎や葉が選ばれる²⁷⁾。全長が 10cm くらいの雌では 2 日～3 日ほどの間に約 500 粒の卵を産む²⁷⁾。

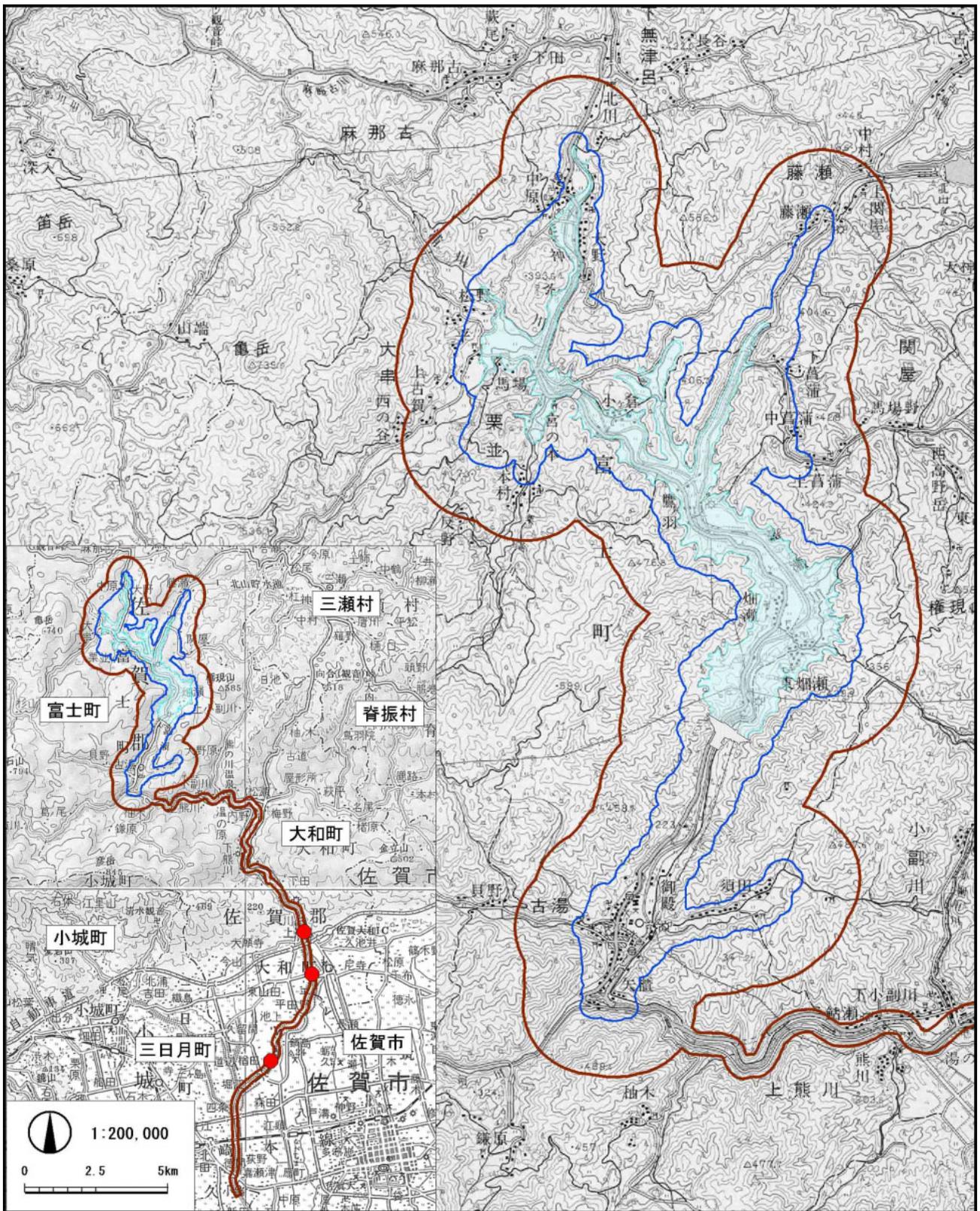
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-6(8)に示す。

本種は、平成 4 年度の調査において、嘉瀬川の川上頭首工上流 1 地点で生息が確認された。また、文献¹⁴⁾²⁹⁾において嘉瀬川の名護屋橋付近 1 地点、池森橋上流 1 地点、合計 2 地点で確認された記録がある。

確認地点の環境は、ヨシが生育する水際部であり、1 個体が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に流れが緩やかな嘉瀬川の下流部に生息すると考えられる。



- 凡 例
-  : ダム堤体
 -  : 副ダム
 -  : 貯水予定区域
 -  : 対象事業実施区域
 -  : 調査地域

 : 確認地点

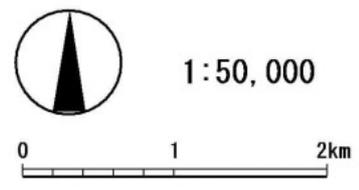


図4.1.5-6(8)
オヤニラミ確認地点